

ちば産学官連携プラットフォーム
2026年度 第2回 共同FD・SD研修会 実施報告書

1. 実施日時

2026年9月2日(水) 10時30分～11時45分

2. 開催形式

Zoomを利用したオンライン開催

3. テーマ

2040年に向けた高等教育のグランドデザインへの視点

4. 参加人数(内訳)

15名

(神田外語大学:1名、敬愛大学・敬愛短期大学:3名、淑徳大学:1名、千葉経済大学・千葉経済大学短期大学部:3名、帝京平成大学:7名)

5. 講師

1. 帝京平成大学 健康医療スポーツ学部 准教授 庄司 一也氏

2. 敬愛大学・敬愛短期大学 地域連携センター長 藤森 孝幸氏(ちば産学官連携プラットフォーム事務局長)
(司会進行 敬愛大学・敬愛短期大学 地域連携センター長 藤森 孝幸氏)

6. 研修内容(実施内容)

ちば産学官連携プラットフォームは、「グランドデザイン答申」中間まとめを契機とした「地域連携プラットフォーム」の一つとして2018年8月に発足しましたが、2018年11月の「グランドデザイン答申」、および2025年2月の「知の総和答申」に示されたとおり、わが国の高等教育は、2040年という節目に向けて、大きな変革の必要性を求められています。

前半の庄司講師からは、これまでちば産学官連携プラットフォームが積み重ねてきた取組を整理し、第1段階(理念)→第2段階(制度整備)を経て、現在は第3段階(再編・連携)の時期に来ていることを提起されました。その上で、今後ちば産学官連携プラットフォームに必要な論点として、「2040年の千葉県の高等教育像をどう描くか」、「各大学はどのような役割を担うのか」、「共同で取り組むべき課題は何か」、「地域構想推進プラットフォームにどう対応するか」の4つを挙げられました。

後半の藤森講師からは、「知の総和答申」を踏まえて今春公募された「地域構想推進プラットフォーム」に、予定の倍にあたる20団体が採択されたこと、採択団体の資料からわかったことやちば産学官連携プラットフォームに不足していることが報告されました。

講演後には出席者から意見や感想が活発に表明されました。

本日の研修内容や資料は、今後、当プラットフォームの参画校に共有し、運営委員会での意見交換にも活用することとなりました。

以上